

科目名	経済学入門			ナンバリング	GEN212	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	山口憲二	担当教員					

授業の概要	私たちの身近な日常生活や戦後70年を踏まえた「日本経済の今」を経済学の考え方、手法で分析する方法を学びます。日常生活における様々な選択、日本経済については戦後70年の歴史、現在の金融、物価、景気、産業構造といった基礎知識のほかに、貿易摩擦、財政改革、環境問題といった応用問題についても解説する。また、行動経済学にも触れ、各自の専攻分野への応用可能性を考える。						
到達目標	1. 経済学の考え方、分析手法について自分の言葉で説明できる。 2. 戦後70年の日本経済の歴史の概要が説明できる。 3. 経済学の主要テーマについて説明できる。 4. 行動経済学の基礎知識も踏まえた上で、各自の専門分野との関係の深いテーマを考えることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	経済学は「経済」以外のさまざまな問題をも説明、分析できる手法である。「経済」知識だけでなく、考え方を広げ、他分野への応用の可能性に関心をもつことが望まれる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【いわき明星大学のディプロマポリシー】						
	○	1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 人々の多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。					
		4. 地域社会の一員としての自覚をもち、地域に貢献できる社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 経済関連の時事問題、報道等について、参照すべき経済学の領域がわかる。 2. ものごとを経済学の視点で見るとはどういうことか、その意味と限界がわかる。 3. 各自の専門分野の関連テーマで、経済学を適用することを試みることができる。	1. 経済学の考え方、分析手法について自分の言葉で説明できる。 2. 戦後70年の日本経済の歴史の概要が説明できる。 3. 経済学の主要テーマについて説明できる。 4. 行動経済学の基礎知識も踏まえた上で、各自の専門分野との関係の深いテーマを考えることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○			○		50%
小テスト・授業内レポート			○				10%
宿題・授業外レポート		○		○			10%
授業態度・授業への参加				○			30%

課題、評価のフィードバック	
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	イントロダクション	1. 講義全体の内容説明。 2. 経済学とはどういう学問か、特に経営学、会計学とのちがいに ついて解説する。	
	第2回	戦後70年の日本経済(前半)	第2次大戦後の混乱期から高度成長期、バブル景気までの日本経 済について、基本専門用語とともに解説する。	
	第3回	戦後70年の日本経済(後半)	バブル経済崩壊後から現在までの日本経済について、基本専門用 語とともに解説する。	
	第4回	経済成長と景気循環	経済成長と景気循環について、日本経済の歴史と関連付けて理論 的な解説を行う。	
	第5回	物価、為替、金融政策	物価、為替、金融政策について、日本経済の歴史と関連付けて理 論的な解説を行う。	
	第6回	消費税と財政再建	消費税の意義、そもそも税とは何か、財政再建とは何かについて 解説する。	
	第7回	産業構造の変化と雇用問題	産業構造の変化、すなわち高度化とは何か、またそれに伴い雇用 問題はどのように変化するかについて解説する。	
	第8回	時事経済問題解説	最近の経済ニュースの中から、これまで学修した内容と関連するも のを取り上げ、解説する。	
	第9回	経済性判断の原理	経済性(採算)を判断・評価する際の基本原理について解説する。	
	第10回	貨幣の時間的価値	預金や借金の金利、投資の利回りついて、その意味と計算方法を 解説する。	
	第11回	経済性判断の演習	経済性判断の演習を行い、日常直面する問題について経済的分 析力を養う。	
	第12回	経済学の応用1	経済学の他分野への応用として、「教育の経済学」に関するテーマ を解説する。	
	第13回	経済学の応用2	経済学と心理学(心のはたらき)を合わせた行動経済学について解 説する。	
	第14回	まとめと補足	これまでの講義のまとめと補足を行い、質問を受け付け、共有、回 答する。	
	第15回	レポート発表会	1人ずつレポートの口頭発表、質疑応答を行う。	
		試験	定期試験はレポート発表会に代える。	
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とする。毎回終了後、manab@上で課題に回答してもらう。		
授業外学習の指示		予習に30分、復習・課題回答に60分を要する。内容はその都度指示する。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	指定しない。
参考書	1. 三橋規宏 他『新・日本経済入門』(日本経済新聞社、2015)、ISBN:978-4-532-13457-0 2. 千住鎮雄 他『経済性工学の基礎』(日本能率協会、1982)、ISBN:4-8207-2044-9
参考URLなど	日銀短観: http://www.boj.or.jp/statistics/tk/index.htm/
その他	